

七十七ニュービジネス助成金受賞

第19回(平成28年度)

企業
インタビュー

Interview

株式会社 JDSound

代表取締役 宮崎 晃一郎 氏



会社概要

住 所：仙台市青葉区二日町13番18号

設 立：平成24年

資 本 金：3百万円

事業内容：音楽機器開発

従業員数：7名

電 話：022 (725) 0009

U R L：http://www.jdsound.co.jp/

新型ポータブルDJ機器「GODJ Plus」を開発、「メイド・イン・宮城」で手掛けた独創性に富むオーディオ機器を世界に発信

今回は「七十七ニュービジネス助成金」受賞企業の中から、株式会社JDSoundを訪ねました。当社は東日本大震災を機に代表者が仙台で起業し、デジタル音楽機器の設計および開発を行っています。当社の世界初のポータブルDJ機器にスピーカーを一体化した新型機「GODJ Plus」(ゴージャージュ プラス)を開発し、さらなる市場の拡大と海外展開を目指しています。当社の宮崎社長に、今日に至るまでの経緯や事業内容等についてお伺いしました。

——七十七ニュービジネス助成金を受賞されたご感想をお願いします。

以前から七十七ニュービジネス助成金の存在を知っており、当社もいつか受賞できるような企業に成長したいと思っていました。5年目を迎えるタイミングでその目標を達成し、歴代の受賞企業様のお仲間入りすることができ大変嬉しく感じております。

被災地から世界へ

——起業に至った経緯について教えてください。

学生時代にICチップ(半導体を用いた集積回路)の設計を研究し、就職した大手の通信機器メーカーでその設計に携わりました。ICチップは、パソコン等で情報を記録したり数値を計算したりと人間の頭脳にあたる役目を担っています。その後、自分の作りたい製品を作るためにより自由度の高いベンチャー企業に転職しました。そのベンチャー企業は遊技機向けの音響専用のICチップを扱っており、その開発担当を任されました。このICチップは、遊技機で再生される映像に合わせて音声等の大量の

デジタル信号を高速処理するための特殊なものです。当社の最初のDJ機器である「GOD J」の中にも同様のものを搭載しておりますが非常に強力な処理能力を有しています。現在の機器の開発に繋がる大変重要なICチップでしたが、これは、メーカーが販売する機器の部品にすぎず、誰が開発したのかお客様には伝わりません。私が製造したものとして認識され、さらに付加価値が大きく利益率の高い製品を開発したいと考えていました。そのような時に勤めていたベンチャー企業は東日本大震災により仙台からの撤退を余儀なくされました。私は最終製品を開発したいという気持ちに加え、被災地の産業の空洞化を防ぎ、仙台に残りたくても就職先がない若い技術者たちの受け皿になりたいという思いから仙台で起業しました。



本社

DJが行うようなターンテーブルを回すこと等ではできませんでした。私はこれまでの音楽機器のICチップ開発技術を生かした手軽に本格的なDJができる機器を製品化できれば、DJをやりたい人に支持されるのではないかと思います。ポータブルDJ機器の製造を考えました。しかし、私も含めた社員は全員エンジニアで音楽に精通している者はいな

震災後まもない頃、仙台で起業するために自分は何ができるか模索していました。当時、スマートフォンのゲームアプリのランキングでDJゲームが上位を占めていました。しかしこれらのゲームを調査したところ、スマートフォンの画面では本来の

かったため、実際のプロのDJから直接話を聞き、開発を進めていきました。またSNSを活用し、DJを行うにあたっての不満や機器に対する要望をまとめました。SNSを利用したことで日本のDJだけではなく、世界中のDJからもアドバイスをいただき、世界各国でニーズがあることも分かりました。そして平成24年に初めてのポータブルDJ機器「GOD J」を開発しました。当社はベンチャー企業で、社員も音楽に詳しい者がいなかったためDJの意見を素直に受け入れることができました。そのため、この製品は世界中のDJの要望を取り込むことができ、高評価を得ることができました。

——事業内容について教えてください。

「GOD J」や「GOD J Plus」のポータブルDJ機器の開発、製造、販売が主ですが、他に各種デジタルオーディオ機器の受託開発をしています。

ギター用のエフェクターやポータブルオーディオプレイヤーの開発等で、音楽機器用のICチップとデジタルオーディオの専門的な技術を持つ社員が、機器に必要な部品選定や回路設計、それを動作させるソフトウェアの開発などを受託し製品完成まで一括でサポートします。

また自社開発の音楽の1分ごとのビート数を推測するBPMアナライザー等のソフトウェアのライセンス販売も行っています。当社のソフトウェアは低負荷かつ省メモリ設計になっているためスマートフォン等の携帯端末の基盤に実装することができます。

——経営理念について教えてください。

「卓越した技術により新しい文化を創造する」です。大それたことを掲げていますが、当社の経営理念の根本は「宝物を作る」ということです。現在、日本は物が溢れかえっており、1つの物を大切に使用する心が希薄になっています。しかし、当社では1つ1つの製品をこだわって開発していきたいと考えています。一生ものの宝物を作り製品を購入したお客様に愛していただける製品を届けたいと思いません。

世界初ポータブルDJ機器

——そもそもDJとはなんですか？

クラブという、音楽を大音量で流してそのメロディーに聞き入ったり、リズムに合わせて踊ったりする場所がありますが、そのクラブにきているお客様の様子を観察しながらそのときの会場に最も適した選曲を行い、様々な機器を駆使して音楽を提供し、盛り上げるのがDJです。DJとはディスクジョッキーの略語で、競馬の騎手のようにレコードを巧みに操作することから名付けられました。日本におけるDJの総人口は8万人程度ですが、全国各地のクラブでは毎日のようにパーティーが行われており、DJのマーケットは市場規模こそ大きくないものの特定のニーズにマッチしたマーケティングを展開することで顧客を獲得することが可能です。



DJブース

DJのイメージはクラブのステージ上で片耳にヘッドフォンをあてながらレコードをくるくる回している姿が印象的だと思いますが、DJを始めるには、レコードをかける2台のターンテーブル、音域や音量をかえるミキサー、音響効果を加えるエフェクター、音をサンプリングするサンプラー等が必要です。これらの機器を用意すると約50万円以上が必要で、また総重量も20kg前後と重くなります。さらに機器を適切に接続・調整するため、コスト・技能・スペースの確保といった面で手軽には準備できないものでした。

——最初の機器である「GOD J」について教えてください。

上記の問題点を解決するために、当社は「GOD J」を開発しました。機器の薄さはスマートフォンとほぼ同じ薄さで、大きさもスマートフォンを縦に2つ並べた大きさです。価格は約6万円で重さは286gとコンパクトで持ち運べます。模倣が困難な独自開発のメインプロセッサを搭載しており、ターンテーブルになる2つのタッチパネルの液晶や、6つの音量等を調節するノブ、音楽再生と停止ボタン等、DJが要求する機能を全て1つの機器に搭載しました。また内蔵しているバッテリーで12時間の長時間駆動が可能です。使用方法は、SDカードに自分の好きな曲を入れて、「GOD J」に取り込みます。SDカードの上限容量は2TB（テラバイト）までで約20万曲入ります。そこから液晶のターンテーブルで曲の早送りや巻き戻しを行い、ミキサーやエフェクターで音を変化させ、曲を自分の好きなようにアレンジすることができます。また使用方法に応じて音楽ファイルの書き込みや削除するためのパソコン、次に流すための曲を選ぶヘッドフォンを準備していただくようになります。また「GOD J」にはスピーカーは搭載されていないため、音を外に出すためには別でスピーカーを準備することになります。



「GOD J」

スピーカーに繋ぐと高性能な音源再生が可能になるため、クラブで音楽を流す際のメイン機としてはもちろん、練習機としても使用が可能です。またDJ機器は、複雑な装置が多く搭載されていて初心者には近寄りがたいイメージがありますが、演奏したい曲のコードをプログラムする機能も搭載しているので、コードを覚える必要もなく簡単に演奏することができます。

DJ機器としての活用だけでなく、屋外でも手軽に持っていくことができるので、キャンプ等を持っていき、バーベキューしながらラジカセのように音

楽を流したりして雰囲気盛り上げることができます。DJのためだけの製品ではなく、音楽を楽しむ全ての人が使用できる製品として開発しました。「GOD J」は、アマ向けの機器として開発しましたが、プロのDJも満足できる機能が多く搭載されています。ちなみにTRFのDJ KOO氏やSEKAI NO OWARIのDJ LOVE氏にもお求めいただき、コンパクトなのに多機能で満足できるDJ機器とお褒めの言葉をいただきました。現在まで累計で1万2千台販売しています。

——「GOD J」の海外展開について教えてください。

平成25年3月にテキサス州で毎年開催される世界最大級の音楽見本市に「GOD J」を出展しました。その見本市で米国大手音響機器メーカーの社長に「GOD J」を気に入っていただき、すぐに契約を結びました。そのメーカーは音楽ケーブルやヘッドホン、スピーカーをつくっているメーカーですが、プレーヤーのように実際に音を出す機器は取り扱っておらず、当社の「GOD J」を自社ブランドとして販売したいとのことでした。有名なメーカーでその品質に関して定評があり、自信に繋がりました。海外では日本よりもDJに関して認知されているので海外での「GOD J」人気に火が付きました。現

在、アメリカに加え韓国やシンガポール等世界各国で販売されています。海外での売り上げは、総売り上げの3分の2を占めています。

A4サイズのクラブハウス

——最新機器である「GOD J Plus」について教えてください。

「GOD J」にスピーカーを搭載できなかった点を踏まえてより高い完成型を目指したのが進化版である「GOD J Plus」です。お客様から好評をいただいている「GOD J」の基本機能はそのまま搭載し、さらに以下の機能を持たせました。



「GOD J Plus」

1つ目が、高音質・大音量のスピーカーです。単に音が出るだけでなく重低音を出すためにできるだけスピーカー部分の容積が大きくなるデザイン設計

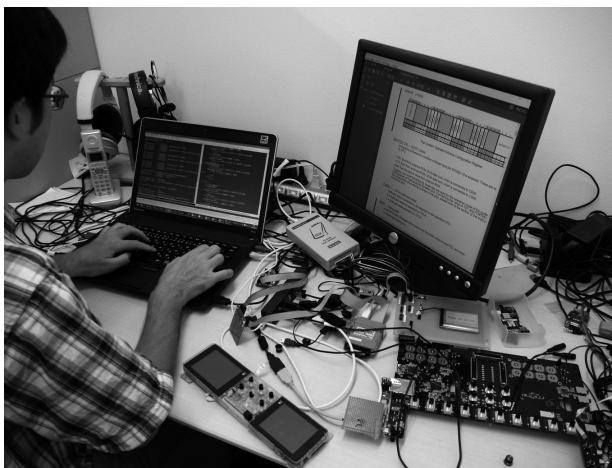
にしました。大音量を実現させるため、ポータブル製品としては世界初となるフルデジタルスピーカーシステムを採用しています。完全密閉型のスピーカーのため、想像できないような深く重みのある音を出力します。スピーカーを搭載してもカバンに収まるA4サイズにまとめたことでいつでもどこでも気軽に音楽が流せるようになりました。徹底した低消費電力設計により、「GOD J」を上回る12時間以上の連続再生が可能です。クラブシーン等での本格的DJ機器としてはもちろん、野外やホームパーティーでも気軽に使用でき



音楽見本市出展時の様子

ます。

2つ目が、Wi-Fi対応でネットワークに接続できるようにしたことです。Wi-Fi経由での音楽ダウンロードに対応します。パソコンやスマホを使用せずに最新の音楽を確認し、曲のダウンロードや自分で作成したプレイリストの共有ができます。



「GODJ Plus」開発の様子

DJを始める際にハードルが高い技術として、2つの曲をなめらかに融合させるミキシング、回転するレコードを反対側に動かして音を出すスクラッチ、音に加工を入れるエフェクト等がありますが、「GODJ Plus」ではこの多彩な機能を自動的に再現することができます。DJの醍醐味を1台に凝縮し、そのポテンシャルは従来のDJ機器に引けを取りません。ノブの数も6個から16個へ増加させ、より一層多角的で緻密な音響効果を出せるような操作も可能です。小規模なお店のオーディオとしてBGMにも活用でき、そのデザインからバーやカフェの洒落たインテリアとしても使えます。

日本最大のクラウドファンディング ——クラウドファンディングで資金を募ったと聞きましたがそのことについて教えてください。

プロモーションやマーケティング調査等のためにクラウドファンディングを利用しました。クラウドファンディングとは、「こんなモノやサービスを作りたい」、「世の中の問題をこんな風に解決したい」といったアイデアやプロジェクトを持つ起案者がインターネットサイトを通じて世の中に呼びかけ、共

感した人から広く資金を集める方法です。当社は日本最大クラスのクラウドファンディングサイトで目標額2,000万円で挑戦しました。クラウドファンディングの主催者側からは難しい挑戦と言われましたが、3週間ほどで目標額を達成し、その後も記録を更新し続けました。結果として5,300万円まで資金が集まり、当時としては日本のクラウドファンディングの中で歴代トップの資金を調達することができました。また1,300人に上る新規顧客の獲得にも繋がりました。目標額が達成することができた喜びとともに、こうした企画を通して、多くの人に「GODJ Plus」の魅力が伝わり、支援していただいていることに感謝しています。

こだわりのメイド・イン・宮城

——製造について教えてください。

「GODJ Plus」を開発し、生産するための資金を募り、残りは製品化となりました。当社は、東日本大震災の被災地から世界に評価される製品を出荷したいという思いから、以前大手電機メーカーの音楽機器を製造していた石巻の電子機器製造企業に依頼しました。

「GODJ Plus」は精密な構造で製造が難しい代物です。実際に「GODJ Plus」に搭載する予定の音圧がある高品質なスピーカーは、音を出すと机から飛び上がるほどのパワーがあります。これをどう搭載するかが問題となりました。製造会社と議論を進めて設計データを取り出し、アイデアを出し合いました。その中で製品の完成イメージが出来上がっていきました。当社だけでは、「GODJ Plus」をお客様に提供することはできなかったと思います。震災後、復興という目標を掲げることでこれまで出会うことのなかった企業と出会い協力し合うことで、被災地から世界に誇れる「メイド・イン・宮城」の製品が完成しました。今後も被災地に新たな産業と雇用を生み出している製品の開発に尽力していきたいと考えています。

21世紀の高性能ラジカセ

——「GODJ Plus」の今後の事業展開について教えてください。

クラウドファンディングが終了し、今後は仙台から全国へ、「GOD J Plus」を発信していきます。

4月から「GOD J Plus」の一般販売を開始し販売は、DJ機器販売店はもちろん、CD販売店、インターネット通販、かわったところでは有名衣料販売店で行います。

仙台の楽器店でも販売することが決定しましたが、ここではピアノやギター等の音楽教室が行われていて、「GOD J Plus」を使用したDJ教室も開催される予定です。

また現在、仙台中心部の英国風パブで「DJパーティー」を定期的に開催しています。音楽は好きだけどクラブまで行くのは億劫だと感じている人や、クラブでは流しにくい音楽をパブでなら思う存分流せるというDJからの強いニーズがあります。普通のお店では、通常のDJ機器を搬入するほど広さはありません。しかし、当社の「GOD J」や「GOD J Plus」であれば、その心配はありません。気軽に楽しむことができます。またクラブでは、DJはひな壇で音楽を流し会場との距離がありますが、パブではDJと会場との距離が近く一体感があります。それぞれのお客様はDJが流す音楽を聞き自分の好きなように楽しむ時間がそこには存在しています。21世紀の高性能ラジカセとして幅広い年代のお客様から愛される製品にしたいです。音楽を「聴く」だけから、曲をアレンジして「作って聴く」文化として仙台に根付かせDJ文化の一大拠点にしたいと考えています。



「GOD J Plus」使用風景

さらに、「GOD J Plus」についても世界に発信し評価してもらえればと思います。当社の「GOD J Plus」が世界中で楽しんでいただけることを願っています。

意思統一と共有

——事業を行ううえで大切だと思うことについて教えてください。

当社のようなエンジニアしかいない企業は社員の意思統一が大切だと思います。エンジニアにはそれぞれのスタイルがありますが、そこで製品のクオリティにばらつきがでてはいけなく考えます。社員と同じ品質基準を共有し、徹底していくことです。

私は、多くのお客様から応援していただき、作りたい物を作りお客様にお届けできることはとても幸福なことで、普通の企業ではあまり体験できないことだと考えています。全工程に携わることができることもベンチャー企業ならではの楽しさです。何からも縛られず、思ったことを実現させることができるのは起業の醍醐味だと思います。



宮崎社長

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

(29. 2. 8取材)